

ホーム名:グループホーム(しおかぜ3F)				
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価
			実施状況	実施状況
I. 理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念を食堂の見えるところに掲げている。スタッフ会議でも理念に基づいた支援ができていくか討議している。</p>	<p>利用者の尊重、利用者と協働して生活する、利用者が地域の一員である事の自覚、この三点を基本理念とされている。文言は3階のリビング内に、4階はEV前の一番見やすい所に掲載されており職員の啓発に努めている。</p>
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>新しい地域で約一年と少し・毎日の公園への散歩やスーパーへの買い物、行きつけの理容院への同行などもできて少しずつ馴染みの地域となってきた。</p>	<p>同じ港区ではあるが、新しい建物に移転された。徒歩数分の所に磯路公園があり、よく出かけられ地元の人と挨拶されている。近所に老人憩いの家のふれあい喫茶もある事から月一回は出かけられている。新しい地区で日常的な交流が始まっている。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域運営推進会議へは地域の方が参加している。地域住民が介護にたいしての不安や知り合いの困りごとなども相談できる場になっている。</p>	/
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ひやりはっと・事故報告を行って一緒に対策を検討したり、地域の催し物を教えてもらって行事に取り入れたりしている。</p>	<p>運営推進会議は規定に従って年6回実施されている。地域の住民や、歯科、鍼灸院等の健康管理関係などの知見者や、組合員理事も参加されている。全般的に開かれた事業所であるといえよう。議事録は家族全員に郵送されている。</p>
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>地域包括の職員さんには事故防止対策の助言をいただいたり、地域運営推進会議で相談に乗ってもらっている。</p>	<p>事業所内での相談事などは、主に包括支援センターなを中軸として話されている。また、市町村における福祉状況の情報を受けたり、施設の運営に関わる会議に参加してもらったりしている。</p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>地域運営会議後は毎回身体拘束適正化委員会を設け、実際にフロアを巡回してもらい状況を見てもらっている。どのようなことが身体拘束にあたるのかの研修も取り入れている。</p>	<p>重要事項説明書や運営規定にも、身体拘束はしないと明記されており、職員もこれをよく熟知している。2ヶ月毎の身体拘束適正化委員会メンバーも、実際に事業所内の見聞を行っており、その実行性を確認されている。職員も常に研修を受けて拘束のない支援の実現を図っている。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>どのようなことが虐待・身体拘束にあたるのか職員会議の研修に取り入れている。</p>	/

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>あんしんサポート・成年後見人制度を利用しておられる方もいる状況で連携してご本人を支援している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>キーパーソン以外の家族にも必要な場合は契約等の書類を用意し丁寧な説明を行っている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等の関係者からあった疑問や要望、地域運営推進会議での意見・施設に設置している意見箱(にじの箱)は月一回行われる事業所向上委員会に報告して内容を討議している。</p>	<p>家族が来訪された時に職員と面会で話された事や、運営推進会議などで出された意見は、職員会議やフロア会議でも話される。向上委員会で検討し運営に反映させるように努めている。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>グループホーム内の会議は月2回。常勤会議と各フロアに分かれてのフロア会議を行っている。非常勤職員も自由に発言できる雰囲気心がけている。</p>	<p>職員全員が参加出来るフロア会議で、日頃感じていた事や提案事などが発言され、支援の中に試行されたりする。常勤会議でも話し合わせられ実際に実行可能な方法などの検討をされたりして反映に努めている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理部と職場代表のとの話合いの場を月1回設けている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>奨学金制度を活用して介護実務者研修の受講や認知症実践者研修・リーダー研修。生協の通信教育の受講なども職員に勧めていっている状況。外部への研修受講にも行ってもらっている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>介護連携介護を月1回行い、常勤職員が主に出席している。デイサービス、デイケア、ケアマネ、訪問看護の職員と意見交流や事例検討会を行っている。</p>		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前から利用していたデイサービスやケアマネージャー・家族など色々なところから情報を収集している。言葉に出せない方や認知症であることから行動に現れたことをヒントに家族、職員と話し合いを何度も行い関係性を築いていっている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>施設見学やご自宅への訪問なども行い、入居前から何度も本人と家族と面談をして不安な事など話し合っている。些細な事柄や相談なども電話連絡している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>その方が使われていたサービス事業所と連携し必要なサービスを取り入れる。当法人の医師、看護師にも担当者会議に参加してもらう場合もある。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者同士でストレスなく、また会話など楽しめるような座席の配置にしている。散歩も一緒に行くメンバーによって分けたり、一緒に行ったりと工夫している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>感染対策で居室での面会は中止しているが、衣替えや居室の家具の配置換え、本人の部屋がどうなっているか定期的に様子を見たい家族には入室してもらっている。家族との外出もしてもらっている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>必要に応じてご自宅への送迎を行っている。馴染みの美容室への送迎、家族の営む店舗への面会なども行っている。</p>	<p>馴染みの場所では散髪屋や美容院、家の近所などを希望される方がいる。また、自宅に寄って帰られる方もいる。事業所はできる限り希望を実現されるように努めている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>洗濯量は毎日の日課で食堂でみんなで行っている。日曜日のご飯作りは季節の物や食べたいものを話し合っていて決めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>気軽に立ち寄れる施設としてご自宅で使わないものや家庭菜園の収穫したものを差し入れる方もおられる。残された奥さんへの様子伺いを行ったところ、「ちょうど命日でお父さんが呼んでくれたのかな。」と喜ばれた。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意見や家族からの聞き取りを行い職員と共有して本人の思いを受け止められるように努めている。気づいたことに記録して本人の行動からヒントを得ることもある。	日頃から利用者との会話を大切に し て利用者の気持ちを押し量るよう にされている。気づかれた内容は 職員同士で共有化をはかる為、i- pad を利用されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居受け入れの際はできるだけご自宅に行き暮らしぶりや地域の特色などを直接感じ取ることができるようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録には細分化したカテゴリーがあり、ご本人の状況を把握しやすい環境になっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、関係者と話し合う。必要に応じて医師や看護師も含め担当者会議の機会を設ける。リハビリや嚥下の相談は法人内PT/STの指導を受ける。	本人や家族との聴聞、日頃のケアをしている職員の意見をよく聞かれている。また、理学療法士や言語聴覚士による専門的な立場からのアドバイスや、医師、看護師の意見も参考にされている。関係者全員の協力で6か月毎の介護計画は作成されているが、現状にあった見直しは常になされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録アプリの導入により、写真での記録や動画なども簡単に申し送りや経過の比較なども簡単にできるようになった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリが多く必要な方については外部の鍼灸院でのリハビリ的な関わりや、診療所で行っている運動に参加するための送迎の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の社会見学の受け入れや中学校の職場体験を受け入れている。神社のお祭り行事で獅子舞が施設に来た。初詣にも出かける。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医師が2週間に一度往診している。その他必要に応じて眼科や皮膚科は職員が同行し家族に結果を報告している。ご家族が同行される場合は事前に情報提供を行い結果は共有している。	協力医のみなど生協診療所(内科)が隣接されいおり、定期の往診と緊急時の24時間の対応である事から、本人は元より家族も安心されている。専門医の診療については家族の希望も考慮されているし、職員も同行されるなどされている。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護は週1回健康チェックを行っている。必要な事柄は訪問看護から直接診療所に報告する。ご本人の精神的な状態もよく観察して職員と相談し支援内容を検討している。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中は病院関係者と電話連絡や書面での報告などで情報を共有している。退院時は診療所の看護師も含めたカンファレンスを行い退院後も安心して暮らすことができるように努めている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前から施設でできる対応を説明して、終末期の意向を把握している。終末期は早い段階から医師を含めたカンファレンスの機会を持ち、予後の説明や起こりうるリスクなども詳細に説明をする。どのような場合に連絡をするなどの詳細についても家族と話し合い、職員にも安心して終末期を迎えることができるようにしている。</p>	<p>事業所側が行う入所期間中の支援について説明がされている。重度化に向かい始める頃には、再度家族と、職員や医師も含めて話し合う事が行われ、これからのあらゆる面での対応の仕方や、最終的な介助支援の方法など齟齬のないようにされている。家族もこの制度に十分に理解を示されている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>スタッフ会議の際に事故発生への対応について確認している。夜間についても診療所の緊急連絡先があり、電話で相談することができる。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防訓練では火災時の対応の仕方を学んでいる。その他、法人では月1回の無線機の使用訓練を行っている。津波避難施設となっており、階段には担架を設置している。</p>	<p>火災時の原因を最初から除去しておくような対策を考えていたり、出火時の適切な避難の仕方を学ばれている。津波避難の対策については、移転以前からの認識もあり、担架の使用の場合も考え、取り出ししやすい所に設置されている。</p>	<p>担架は平坦なところでは使用できても、勾配のある階段では難しいのではないと思われる。この点については、職員が手際よく使用できるまで、訓練されるように望まれます。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者の方を人生の先輩と言うことを念頭に置いて接している、と同時に堅苦しくない家族のような温かみのある・冗談を言って笑いあえる雰囲気作りを行っている	基本的な人格尊重やプライバシー確保は勉強会を通じて認識している。常勤職員は認知症実践者研修を受講しているが、教条的に陥らぬようにもされ、温かみのある支援を大切にされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望される事を応援し、出来る限り自己決定を尊重している。はっきり言葉に出せなくても表情や行動を読み取り本人の意思に沿えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、個々のペースに合わせた起床時間や食事時間で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院への送迎や本人が行きたいタイミングで送迎を行っている。パーマのセットなども職員が手助けしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月～土曜日の昼、夕は高齢者配食サービスを利用しているが、好みでない方については好きなおかずを購入したり、調理して提供している。おかずのとりわけや後片付けは可能な限り一緒に行っている。	食事はバラエティーであり高齢者用のバランスの良い内容のものとなっている。好き嫌いも考慮されており、皆さん楽しく食事をされている。特に日曜日は、食材の購入から料理までを、利用者が一緒に参加出来るという楽しみも味わわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた量や形態で対応している。水分量や食事量、尿の回数も把握して必要に応じて医師、看護師に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは職員が言葉がけや直接介助している。訪問歯科にて定期的に口腔チェックを行い、個々に合わせたブラシの選定やケアの方法を指導してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を記録している。本人の排泄パターンを把握しトイレで排泄できるように誘導している。	排泄チェック表、アイパッド等を利用して、排泄時にトイレ誘導を行うようにし、習慣化を図り、自立で排泄意欲を高めるようにとされている。夜中は職員配置の関係で、離床センサーやポータブルトイレを利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認して排便の確認をしている。毎日の午前、午後のレクリエーションでは体操をと入れられている。必要に応じてお腹の張り具合を看護師に見てもらうこともある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は希望があれば時間、曜日など可能な限りご本人に合わせている。(夜間は不可)無理強いせず、着替えや清拭で対応する場合や同性介護を希望される方は日程を変更して対応している。	週に2回の入浴日設定はされているが、入浴を楽しんでもらう為に、できる限り本人の希望をとり入れられている。季節湯や、自分用のシャンプー使用や、同性介助の実行などをして、当人にとって湯に入りやすい状態にされている。	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中の過ごし方は人それぞれで食堂、自室、キッチンの前で職員と話をする方もいる。遅くまで起きて午前中に眠る方もいるが自宅からの生活習慣であるためご本人に合わせた活動時間で対応している。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>一階にはかかりつけ薬局があり、居宅療養管理指導を行っており、不明な点や服用方法や形状の相談をしている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>毎日の散歩は日課になっている。散歩に行かない方もいるが、買い物同行し、欲しいものを購入されている。日曜日は季節のイベントや食事づくりで楽しんでもらっている。</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>行ったことを忘れて日に何度も散歩に行きたい方もいるが、短時間でもなるべく本人の希望に合わせている。家族のイベントはご本人の生きがいでもあるため準備から協力している。希望があればご自宅に送迎して家族と過ごす支援を行っている。</p>	<p>日々の買い物や地域の行事、投票、さくら見物、近所のカフェなど、機会がある毎に外に出かけるようにされている。年2回の遠足や、初詣も実施するようにしている。GHしおかげは、外出支援をよくされている方であるといえよう。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本は立替払いで欲しい者を購入して利用料金に乗せて請求している。ご自分でお金を所持している方はいないが、ご本人と家族が相談して1か月の上限を決めて欲しいものを購入する方、目的なく買い物に行って食べたいものがあれば購入する方がいる。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>個人的に携帯電話を所持されている方もいる。使い方については職員がお手伝いしている。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>認知症の症状で明かりをつけたままの方が見当識の低下を防ぎ安心できる方は夜間もある程度の明るさで過ごす方もいる。また、アロマを炊いて精神的安らぎ効果を用いたこともある。季節感を感じてもらえるように壁画や工作を共用部に飾り付けている。</p>	<p>新しい建物に移転されてから、それぞれ3階、4階毎にユニットを設けられている。各リビングは広くなり、採光の窓も大きくて全体が明るい。壁には春夏秋冬の壁画の掲載や作品も飾られており、利用者に近親感を与えている。利用者はここで長時間寛がれている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者同士の関係性を配慮した食堂の席にしている。疲れた時や一人で過ごしたい時は各自居室で思い思いの過ごし方をされている。</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には仏壇がある方もいる。仏花の購入に付き添うこともある。転倒事故の防止策で手すりの位置や環境のアドバイスは行方が基本はご本人、家族の思いの詰まった居室となっている。</p>	<p>使い慣れた家具、布団、小物、仏壇などを持ち込まれ、利用者が自分だけの気に入ったら居室造りをされている。居室は掃除されていて常に清潔で凌ぎやすい環境にされている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>車椅子を使用している方も毎日のリハビリから歩行器での移動が可能となった。トイレの場所がわかるようにトイレの場所への誘導張り紙を貼る、またわからないときは自室のポータブルを使用され場合もあるが安心して様子。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができて (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目: 9,10,19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない